

第57回宮崎県学校体育研究発表（えびの・小林・高原地区）大会 小学校部会 アンケート結果

記録者：西都市小体連研究部長
西都市立都於郡小 坂尾 知宏

1 研究発表・視点説明

- 保健学習に関しても、理論的な考えの基に、各校種ごとに児童生徒の発達段階を踏まえた授業を作り上げ、公開するという形にしていかなければいけないと感じた。そのためには、研究主題・副題・研究構想を修正する必要があるのではないか。

2 授業発表(①保健)

- 今年2回目の保健の授業研で、大変勉強になった。
- 児童によく考えさせているよい授業だった。ブラックライトが学校にあるとよいと思った。
- すばらしい授業だった。
- 実演を取り入れたことで、児童の興味を引き付けることができていた。
- 保健についてはこれまで勉強不足だったので、とても参考になった。「学活」との違いも考えて指導に当たらなければならないことも学んだ。
- 分かりやすい説明や掲示資料だった。
- 授業後、児童は手を洗いたくなるだろうと思った。
- 今後学んだことが実践できるかどうかを追究していく必要がある。児童に危機感（手洗いしないが大変だ）を持たせることも大切と考える。
- 同じ学校の先生で授業をされていなかったことが不思議だった。

3 授業発表(②ソフトバレー)

- 学習訓練がしっかりなされており、てきばきと児童が活動していた。だからこそ、さらに教え合う場面を意図的に設定すれば、深い学び、欲求を満たす学習になったのではないか。
- 学級の良い雰囲気が見えて、大変和やかになった。
- 先生が児童一人一人をよく見ており、児童の想いに寄り添う姿が印象的だった。
- 学級の雰囲気がとても良かった。学習することの必要感や単元の目標に向かうためのゲームの組み方の重要性、児童の思考を促すICTの活用の仕方について再考するよい機会となった。
- ICTの活用のメリット・デメリットを理解し、活用する必要があると感じた。
- ふんわりとした雰囲気での授業が進み、児童が学ぼうとしている姿が良かった。「KOTAE」でもおもしろい。ぜひ、本校版のカード等も作り、実践していきたい。
- 「できる」ということについてじっくり考えることができた。持ち帰って実践につなげたい。
- まずは、自分が「できる」「わかる」、次にともに「できる」「わかる」という授業にしていきたいと思った。
- 運動量が確保され、児童が意欲的に学習に取り組んでおり、すばらしい。ICTの活用についても、今後考えていきたい。
- 主運動につながる、サーキット運動は取り入れていきたい。
- サーキットトレーニングの流れや、やり方が大変参考になった。
- 音楽に合わせて初めの運動を行っていることが参考になった。
- 導入の活動がスムーズに行われていたが、本時の主運動へどのようにつながったか検討する必要がある。
- 他の種目よりも技能の力が必要になる種目の中で、工夫されたゲームを行っていて、大変参考になった。「パス」「サーブ」「スパイク」の3つの独立した技能をうまく組み合わせたいと思った。
- ICTの活用の在り方や目的意識の持たせ方などが参考になった。
- 兄弟チームで協力することで、技術の習得を楽しく行うことができていた。
- ボールを持たない児童もうまく動いていたので、どのように指導されていたのか知りたかった。
- 目標－評価－教師の支援（言葉かけ）につながりを持たせることで、「できる」授業になるので

はないかと思った。

- めあてが「できるようになろう」で、評価が「関心・意欲・態度」の観点だったので、めあてと評価の在り方については、検討が必要ではないか。
- 「KOEТАカード」はとてもよい資料なので、ぜひ活用させていただきたい。さらに、掲示して児童自らが自分の必要なポイントを調べ、話し合う活動に発展できるとよいと思った。
- 「攻防」「ごちそう」「4つのできる」「アクティブ体育」等、自校の先生方にも伝えていきたい。
- 授業の進め方が大変参考になった。
- 大変参考となる授業を参観させていただいた。
- 指導者がマイクを活用したことで、指導者の言葉が聞きとりやすかった。

4 授業研究会(ワークショップ)

- ICTやカードの活用等、グループで話すことができ、勉強になった。
- ワークショップ形式で、他の先生方の考えを詳しく聞くことができ、良かった。
- 目的をもって撮影することで、指導に生かしたいと思った。
- KOEТАカードがほしい。
- いろいろな意見を聞くことができ参考になった。授業者が「ねらい」をどこに持つのか、指導要領との関係、評価基準などをしっかり考えておく必要性について再確認できた。
- 全体協議の時間がしっかり確保されており、考えを広げ、深めることができた。他者の意見を聞くことは、新たな発見につながるので、今後もこのような形式での協議をお願いしたい。
- ワークショップ型の研究会だと、自分の思いをアウトプットしやすく、まさにラーニングピラミッドの90%になるような充実したものになった。
- 参加者が観るだけでなく、主体的に学べる研究会で充実感のある1日となった。特に、ワークショップでは、日頃の教育実践を踏まえた意見が多く出され、大変勉強になった。
- 普段の授業から、「何をできるようにさせるのか」を意識しながら指導したいと思った。
- ワークショップ形式での事後研究会では深まりがないままに終わってしまう。全体会の時間を十分に取り、いろいろな意見を聞きたい。全体会において司会者がしっかり意見等を把握し進めていくのは、ワークショップ形式と違い、司会者の力量が問われるが、深まりのある議論となる。
- 授業を提供していただいたのに、保健に関しての協議がなかったのは、残念だった。

5 ポスターセッション(延岡市・串間市・派遣研修生)

- 延岡市の一人一人にめあてを持たせようとする取組は興味がある。
- 3つのポスターセッションを聞くことができ、良かった。

6 開会行事・閉会行事

(特に記述なし)

7 運営面(日程・会場設営・案内・役割など)

- 大変良かった。朝早くから案内していただき、ありがたかった。
- 屋内での授業参観では、スリッパを準備してくださるとありがたい。
- 昼食の席については、各自自由がよいと思った。

8 その他

- えびの市は学校数が少なく負担が大きかったと聞いた。学校数などを考慮し、ブロックの再編等を検討する必要があるのではないか。
- 体育の授業と保健の授業が基本的な考えを共有しているという研究は面白いと考える。さらに、他教科・領域との関連を図った体育科学学習も小体連でしか提案できない特色になるのではないか。
- 以前県小体連でとられた運動会についてのアンケートを、より対象を広げてとり、公表していただくと大変参考になる。